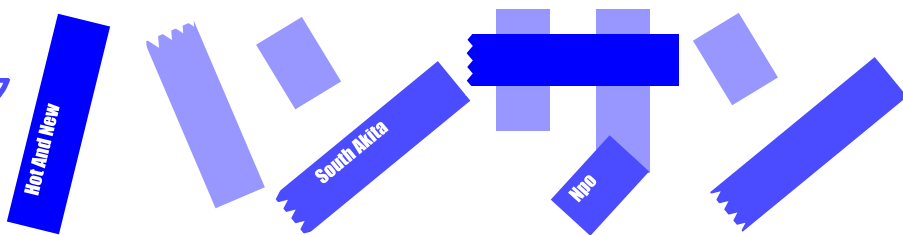


県南のNPOを情報でつなく、ささえる。

# 秋田県ボランティア NPO 活動ニュース

「県南版」



# 2

March 2022  
Vol.165

## P2…活動ウォッチング

えがお GOHAN だいせん(大仙市)

## P3…がんばる地域応援隊 Vol.9

元気なふるさとづくり顕彰事業表彰団体の紹介

## P4…秋田県南NPOセンターより

IT・ICT・DXの活用で変革する社会が、目の前に



※上2枚「うごまち除排雪ボランティア  
チーム」(羽後町)の皆さん



※下2枚「院内雪減隊」(湯沢市)の皆さん

### 今月の表紙

#### 「雪に負けない」地域の若いチカラ

昨年は強烈寒波で記録的な大雪に見舞われた県南地区ですが、今年もまた寒波襲来で2月に入ってから大雪に悩まされる地域が少なくありません。そんな中、今年も高齢者のみの世帯などに対して雪下ろしや除排雪を行なう住民主体の取り組みが行われています。地域によって状況が異なり、活動形態も様々ですが、近年は若い世代による取り組みも行なわれるようになり、新たな地域の担い手としても期待が寄せられます。(八嶋英樹)

# 活動ウォッチング

THEME\_ボランティア/NPO

「居場所づくり」「思い出づくり」  
「学習支援」「子育て支援」

## DATA 団体情報

えがお GOHAN だいせん(大仙市)

代表/高橋博文さん

設立/2021年2月

会員/10人

活動日/毎月第3土曜日 9:30~13:00(要確認)

連絡先/090-7072-2352(高橋)

えがお GOHAN だいせんは大仙市強首で2021年2月に設立されました。元教員、調理師、保健師、主任児童委員、民生児童委員、食品衛生責任者など10名で構成されています。



少子化の中で子ども会自体がなくなってきており、世帯間の格差が子どもの体験や思い出づくりの格差を広げてしまっていないかと考えたことが設立のきっかけとなりました。「昔は世帯単位では出来ないことも、子ども会で大勢の人が集まることで得られる学び、楽しみなどがあったような気がします」と代表の高橋さん。



形は子ども食堂ですが、毎回、イベントにも重きを置いて実施をすることを意図してイベント名を「双葉すくモグ」という名前にしました。

「双葉」→会場の隣に昔あった小学校名  
「すく」→ふたばになぞらえて、すくすく伸びる、成長する、スクール  
「モグ」→もぐもぐ食べる(美味しいものを食べれば誰だって笑顔に!)

### ◆開催概要◆

【開催日】:毎月第3土曜日 9:30~13:00

【会場】:強首地区多目的研修施設

【対象者】:園児から中学生までとその保護者  
(子どもだけの参加もちろん大歓迎)

【参加費】:無料※保護者は200円の任意協力金

## ◆◆まなびイベント「双葉すくモグ」の開催◆◆

12月と1月に強首地区多目的研修施設にてまなびイベント「双葉すくモグ」が開催されました。

### ◆12月18日(第1回)

- ・体験イベント:WA ROCK(製作のみ)  
ご指導いただいた方:池田様ほか4名の方々
- ・ランチメニュー:ハンバーグランチ、サラダ、フルーツ
- ・参加者:子ども8名、保護者3名



当初4月オープンの予定でしたが、コロナ感染症拡大防止のため、公民館施設での飲食を伴うイベントが認められず、12月により早く開催されました。

その間、チラシを作っては断念し、打ち合わせで決定したことも「見送り」の連続でした。この間の時間を使って、最大の課題であった運転資金の調達や、イベントにご協力いただける団体等の確保、フードバンクあきた様からの食材の確保などに取り組みました。コロナ禍だからこそ、気持ちを切らさずにスタッフ一同、連絡をとりあいながら前に進んできました。(代表 高橋博文さん)

### ◆1月15日(第2回)

- ・体験イベント:絵手紙教室  
ご指導いただいた方:協和絵手紙サークル 土田様ほか2名の方々
- ・ランチメニュー:カレーライス、サラダ、フルーツ
- ・参加者:子ども5名、保護者2名



(取材:今 拓也 編集:八嶋英樹)

# がんばる地域応援隊

## Vol.9 元気なふるさとづくり顕彰事業表彰団体の紹介

秋田県では、自主的・主体的な地域活動に取り組む市民を対象に、特に優れた個人・団体を表彰する「元気なふるさとづくり顕彰事業」を平成19年度から行っています。12月から2月にかけて表彰式が開催されましたので、ご紹介します。(表彰者・団体/活動内容)

### ■ 仙北地域の表彰者・団体

◆NPO法人角館里山プロジェクト/仙北市角館地区の里山の再生・保全のための活動を行っており、山の管理・保全にとどまらず里山をツールとした地域交流活動に取り組んでいます。

◆土谷 和久/平成22年に県外から移住し、観光 PR や地域活性化のための活動や、「仙北市移住者の会」を設立して移住者支援活動に取り組んでいます。ご当地キャラクター「オモテナシ3兄弟」をプロデュースしました。

◆美郷民話の会/美郷町を中心に、県内各地で民話を語り継ぐ活動に取り組んでいます。学校や地域行事などで「昔語り」等を行い、地域に伝わる民話・昔話の普及や言い伝えの記録保存に貢献しています。



▲仙北地域の受賞者

### ■ 平鹿地域の表彰者・団体

◆石田 正/元気の輪が広がることを期待して、平成23年から地域の交流の場(いきいきサロン、ふれあい学校など)や福祉施設などで弾き語り活動を行っています。

◆泉谷土木・細谷設備EMS実行委員会/市町村合併後、管理が手薄になった道路や公園周辺のごみの回収や除草、植栽などの環境美化活動を行っています。

◆越後谷 利秋/「地域づくりと地域福祉の向上に貢献していきたい」との想いから、平成18年より公共施設、高齢者福祉施設等でギター弾き語り活動を行っています。

◆<sup>かねざわしんだてかい</sup>金澤陣館会/平成26年から金沢地区において高齢者宅の雪下ろし及び除排雪活動や朝市の開催による高齢者の触れ合いの場づくり、さらには地区の<sup>きょうあい</sup>狭隘な生活道路の除雪もしています。

◆<sup>ほろわちくじちかい</sup>保呂羽地区自治会/大森町保呂羽地区において併設24年より共助活動を実施することにより、今後も安心して住み続けられる地域づくりを行なっています。



▲平鹿地域の受賞者

### ■ 雄勝地域の表彰者・団体

◆東成瀬村のぞみの会/平成22年4月に設立され、住民が住みやすい・生きやすい地域とするため自殺予防の啓発活動を中心に行っています。

◆NPO法人こまちハート・オブ・ゴールド/子供、高齢者、障害者等誰もが多様な種目に参加できる「総合型地域スポーツクラブ」の活動を中心に据え、幅広い世代の地域住民が自主的かつ主体的に、いつでも活動できる「場」と「時間」を提供しています。

◆チャレンジスポーツクラブいなかわ/地域の総合運動場である「稲川交流スポーツエリア」の指定管理者として、地域住民が年間を通じて施設を利用できるよう、様々なプログラムを考案、実施しています。



▲雄勝地域(湯沢市)の受賞者



▲雄勝地域(東成瀬村)の受賞者

受賞された皆さん、おめでとうございます。それぞれの活動が更なる波及効果を生み、市民活動がさらに広がっていくことに期待いたします。(八嶋英樹)

## IT・ICT・DXの活用で変革する社会が、目の前に ～市民活動団体もアンテナを貼っておこう～

### ■ 今、話題のDXをご存じですか？

国が「デジタル庁」を創設して半年。秋田県でも「デジタル政策推進課」「産業政策課デジタルイノベーション戦略室」が設置され、社会のデジタル化を進めようとしています。

企業でも人口減少による人手不足解消や革新的なサービス開発などに活用するため、デジタル化は喫緊の課題となっており、IT・ICT<sup>\*1</sup>の活用やデジタル・トランスフォーメーション(DX)<sup>\*2</sup>の導入は不可欠だと言われています。しかし、「世界デジタル競争ランキング2020(国際経営開発研究所)」によると、日本は63か国中27位。同じアジア圏の韓国(8位)、台湾(11位)、アラブ首長国連邦(14位)、中国(16位)などから遅れを取っている状況です。

今、行政や民間企業から提供される様々なサービスにこれらの技術が活用され始めています。地域住民もスマートフォンなどの身近なツールからこれらの技術を利用したサービスを利用できるようになったり、自分の意識しないところでサービスの利用実績がデータとして保存・分析され次の行動を予測したかのようにサービスが提案されるようになったりすることが考えられます。住民がこれらの利便性を実感できるようになり、社会に普及していく可能性は高いでしょう。また、サービスを提供する側の業務効率や新たなサービスを開発するまでのスピードも高まることが期待されています。

では、私たち市民活動団体はどうでしょうか。県内の市民活動団体はITの活用が長年の課題となっておりました。IT・ICT・DXの普及により社会のサービス提供・開発スピードが早まる中、市民セクターのみ従来どおりとなれば、デジタル化に慣れた住民から見ると「現状に対応できてい

ない」と感じられる可能性があります。地域や利用者寄りになったNPOならではの活動を大切にしつつ、事務作業やデータの収集・入力・集計・分析など、効率化できるところを工夫していくことも同時に考える余地がありそうです。

\*1 ICT(情報通信技術)

通信技術を活用したコミュニケーション、産業、サービス

\*2 デジタル・トランスフォーメーション

デジタル技術を用いることで、人々の生活やビジネスに変革を起こし、より良くすること

### ■ NPOのICT活用状況

2016年にNPOサポートセンター(東京)が全国のNPO・公益法人に対して実施した業務管理用データベースの普及・活用実態調査によると、団体が管理しているデータの種類として多かったのが「利用者、会員、寄付者」に関するデータでした。使用している管理ツールはExcel<sup>エクセル</sup>が最も多く、団体が感じている課題としては「特定の人(特定のパソコンから)しか把握・利用・更新できない情報が多い」「管理業務の増加に伴う人手不足」「情報セキュリティ対策」「データの重複(一元管理できない)」などが挙げられています。今後、詳しく知りたい製品はExcel<sup>エクセル</sup>のほか、「Access<sup>アクセス</sup>」「Salesforce<sup>セールスフォース</sup>」「FileMaker<sup>ファイルメーカー</sup>」「Kintone<sup>キントーン</sup>」でした。

2018年より、NPOサポートセンターと日本財団カンパニプロジェクトの共催で「NPOによるICTサービス活用自慢大会」が開催されています。受賞団体のICT活用事例には参考にできることも多くあります。ホームページから、ぜひご確認ください。(奥ちひろ)

※HPは右記QRコードを読み取るか、「NPOによるICTサービス活用自慢大会」で検索



秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

## ハンサン

2022年2月10日発行  
2月号 VOL.165

発行：秋田県あきた未来創造部地域づくり推進課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター(南部市民活動サポートセンター)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00~18:00  
土・日 9:00~17:00

【休館日】木曜日・年末年始(12/29~1/3)

〒013-0046 横手市神明1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail:ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/



サポセンブログ  
QRコード

編集スタッフの  
つばやき

VOL.07

南部市民活動サポートセンター  
センター次長 奥ちひろ

秋田県がNPO支援を始めた当初、県とNPO等による車座会議を開催し、市民活動と県民協働の気運を高めてきました。この若者バージョンができないかと当法人が県に企画提案を行い、2009年より「若者会議」がスタート。本県初の若者会議は全国に広がり、これを調査研究しようということで(一財)日本青年館青年問題研究所の常任研究員を拝命しました。市民活動で地域が変わると同時に、自分も豊かになっていく。2022年は改めてその価値を考えたいと思います。